

加し、約五百本あるカラマツ精英樹を一本ずつ双眼鏡等により確認しながら球果を探しました。

調査の結果、環状剥皮を行った精英樹四十本は試験的に全周剥皮や剥皮幅を変えて実施したこともあり、全周と十二センチ幅剥皮などの二十本は枯れてしまいましたが、残りのうち十五本で着果が確認され鈴なり状の精英樹もあり環状剥皮の効果を確認しました。この他の精英樹約四百六十本中、六十二本に着果を確認しました。

昨年度は、採種園での着果がほとんど確認できなかったことから、採種園整備と環状剥皮の効果が現れた結果となりました。

また、UAV（ドローン）を活用した調査も試験的に行い、一部ではあります上空から着果状況の撮影を行いました。

今回の結果も踏まえ、採種園に隣接している展示林内（旧採種園）においても来年に向けた着果促進のため環状剥皮を



上空から撮影した着果木

行うなど、引き続き採種園の整備を行いカラマツ種子の安定的な供給に向けて取り組むこととしています。

地元と連携した植樹祭の開催

「南木曽支署」五月二十一日（土）、長野県木曽郡南木曽町漆畑地区において、南木曽町と当署の合同植樹祭を開催しました。この植樹祭は毎年恒例行事で、開催場所を町有林と国有林の交互に行っています。今年は、町有林での開催となり、第六十七回全国植樹祭のプレイベントとしての位置づけとなった木曽郡植樹祭（県民植樹祭）も併せて行ったことから、例年の三倍五〇〇名を超える参加者による盛大な植樹祭となりました。

式典では、南木曽小学校四年生の生徒による「みどりの宣言」や、式典会場となった木地師の里から南木曽ろくろ工芸協同組合員による「ろくろの手挽き」の実演、当署職員による植樹指導が行われ

ました。



力を込めて植穴掘り

式典後は、約一鈴の植樹会場に、町花であるミツバツツジや、ろくろ細工の原木になるトチノキやケヤキなど約二〇〇〇本を植えました。当日は、雲一つ無い晴天に恵まれ、参加者は汗を拭いながらの作業となりました。

また、翌週の五月二十八日（土）には、長野県木曽郡大桑村ののぞきど森林公園近くの村有林において、大桑村と当署の合同植樹祭を開催しました。この植樹祭も毎年恒例行事であり、村内や愛知県北名古屋市等から約二七〇名が参加し、紅葉が楽しめるカエデなどを約二五〇本植樹しました。植樹の後、大桑小みどりの少年団と北名古屋市の西春少年少女合唱団の子供たちを対象とした森林教室では、ハンノキ等の小枝を使ったエンピツ作りを行いました。中には帰



合同植樹祭の開会式

り間際まで粘って五本も作る強者もいるなど大変好評でした。

両植樹祭とも、地元からの要望に応え、当署の全職員の協力のもと、事前準備から当日まで対応することで無事実施することができました。実施後には、町村長をはじめ関係者から当署の対応への感謝の言葉とともに、引き続きの連携協力について要請があるなど、地元の皆さんに南木曽支署の存在感を示すことができたのではないかと考えています。

当署では、今回の植樹祭の他にも、四月九日（土）の商工会主催による伝統工芸を紹介する「匠市」での木工教室や、小中学校の森林教室（犬山中・五月十日、大桑中・六月一日、南木曽小・六月一日）などに取り組んでおり、今後も地元の皆さんから南木曽支署があつて良かったと思ってもらえるよう、地元目線で精一杯取り組んでいくこととしています。



大きく育てと願いを込めて

木曽の国有林見学会2016

(春季) を開催

「ふれセン・名古屋事務所・木曽署」

五月二十五日、木曽森林管理署管内の赤沢自然休養林で、木曽川下流域の住民を対象とした「木曽の国有林見学会2016春季」を開催しました。

この催しは、江戸時代から現在まで深い繋がりをもつ木曽と名古屋の関係や、日本の森林・林業について理解を深めてもらうこと、併せて木曽地域復興支援を目的に、下流域の都市住民の方々に、木曽川源流の国有林を訪ねていただき、木曽地域の林業の歩み、木材輸送方法(伐採地、小谷狩り、森林鉄道、林業遺産)及び名古屋の熱田白鳥野木場にたどり着くまでの運材技術の変遷や木材の生地を、実際に見聞きしていただく学習講座で、



参加者全員で記念写真



ガイドによる「ひのき大樹」の説明

「木曽の国有林見学会」と銘打って昨年から春と秋に開催しています。

今回は、名古屋市内を中心に四一名の一般参加者と、ガイド等を行う国有林職員六名の対応により実施しました。

この講座に先駆け、五月十八日に、当見学会の予備知識を深めるために「熱田白鳥の歴史館」において、歴史と木材の利用をテーマとした展示の見学や事前学習会を行いました。また、当日のバスの中では、木曽谷の今昔、伊勢神宮御神木御代祭や思い出の森林鉄道が上映され、木曽山への想いを膨らませながら木曽ヒノキの生地へと遡っていきました。

赤沢自然休養林では、やわらかな新緑の中で昼食をとった後、職員のガイドにより木曽ひのき林の中を森林鉄道終点「丸山渡停車場」から冷沢コースを散策しながら、江戸時代から歴史とともに育まれてきた樹齢約三百年余りの木曽ヒノキやサワラが生い茂る林内を散策し、木

曽の林業の歴史や運材方法、伊勢神宮との関わり、木曽五木の樹種の見分け方や特徴などを学ぶとともに、今年度から始めた、赤沢自然休養林内の遊歩道を歩いてパズルを完成させる「パズルラリー」にチャレンジしていただきました。



上を見上げて「樹高測定中」

見学会終了後のアンケートには「森のすばらしさを再認識した」「期待以上のものがあつた」「森のことをもっと知りたくなった」、また、パズルラリーについては、ほとんどの方が良かったとの感想が記された他、「我社の職員研修として計画したいが、現地案内をしていただけか?」といった問い合わせも後日寄せられました。

また、今回も王滝復興支援の取組として、王滝村から弁当の調達とともに、チャリティーとして地元の特産品等の購

入(お土産代)を設定しました。今回はおやき、エゴマのお菓子や、エゴマとすんき漬けを使った「御岳カリ」が配られました。後日「うちの飲食店で提供したいのでまとめて仕入れたい」といった問い合わせがあり、この取り組みによる支援の輪は確実に広がっています。

ヒノキコンテナ苗植栽後の検証 現地検討会を開催

「岐阜署／森林技術・支援センター」

平成二十八年五月十二日、岐阜県下呂市金山市民会館および岐阜署管内の高天良国有林において「ヒノキコンテナ苗植栽後の検証現地検討会」を開催しました。

コンテナ苗は、通常流通している普通苗に比べて「植栽時期が長い」「植栽が容易」「活着率が良い」等、低コスト造林技術の確立のために不可欠であり、そ



生育状況検証の様子

の試験研究が全国で行われています。

高天良国有林では岐阜県森林研究所と共同でコンテナ苗試験地を設定し二年が経過したことから、これまでの研究開発の結果等について発表を行うとともに、現地において生育状況の検証を行い、その普及を図ることを目的に募集したところ、県内の地方公共団体や林業団体等約六十名の参加がありました。

はじめに、金山市民会館において民国連携して取り組んでいる研究課題について、森林技術・支援センター三村森林技術普及専門官から①「普通苗とコンテナ苗の植栽功程の違い」岐阜県森林研究所茂木主任専門研究員から②「植栽後の初期成長に優れるヒノキコンテナ苗の開発」同所渡邊専門研究員から③「植栽効率の向上と通年植栽に向けた技術開発」の発表を行いました。



さまざまな植栽器具を手に取る参加者

の展示説明を行いました。

参加者からは「成長の早いコンテナ苗で下刈の省略ができないか」「下刈り回数が減らせられないか」「地拵の省略も可能ではないか」「植栽器具の重さの違いがよくわかった」等の感想がありました。

今後は、現在までに蓄積している実証データと継続中の成長調査データを取りまとめ、ホームページ等により情報発信するなど低コスト造林技術の開発・普及に取り組んでいくこととしています。

犬山中学校総合学習への支援 （協議会・NPOとの連携支援）

【木曽署】愛知県犬山市立犬山中学校の二年生二七七名が、二泊三日の日程で木曽総合学習を実施し、当署管内の国有林には五月九日、十日の二日間訪れました。

初日は、赤沢自然休養林内において三班に分かれてオオヤマザクラ記念植樹や遊歩道の木質チップ敷設作業を行いました。一班と三班は遊歩道の木質チップの敷設作業を行い、二班は遊歩道付近にオオヤマザクラ記念植樹の後に遊歩道の木質チップ敷設作業を実施しました。実施に当たっては、「赤沢溪谷を美しくする保護管理協議会」と当署が共働で活動を支援しました。作業終了後には生徒から「くわが重く木を植えるのは大変だった、チップは柔らかくて歩きやすいので、歩く人が喜んでくれると良い」との声が聞



赤沢休養林での集会の様様

こえてきました。

二日目からは生徒は四、五名程度のグループに分かれ木曽地域内で木工体験やヒノキ笠作り、製材所などを訪問し木曽地域の伝統や文化等について学習しました。

二日目は、天候が悪くでしたが木祖村にある小木曽国有林内で枝打ち体験やニホンジカの生息を調査するために設置したセンサーカメラのデータ入替え作業を行いました。

犬山中学校の木曽総合学習は、木曽川



オオヤマザクラの記念植樹

を縁にした上下流域の交流の一環で平成十一年から継続して実施されており、今年で十八年目になります。毎年国有林のフィールドを活用しており、当署としても、下流域の将来を担う中学生が森林・林業に理解を深めてもらう絶好の機会と捉え、地元の協議会やNPOと連携しながら木曽総合学習を今後とも支援していきたいと考えています。



遊歩道の木質チップ敷設作業



「中信署 上高地治山事業所」

治山技術官 宗廣 克徳

上高地治山事業所は、松本市安曇に位置し、所管する区域には、北アルプスへの玄関口もあり槍ヶ岳等三千メートル級の高山を有しています。

梓川上流の上高地【松本市】を始め、木曾路中山道の宿場町である奈良井宿・贄川宿【塩尻市】、北アルプスの伏流水を利用した大規模なわさび田等【安曇野市】見所が多い場所です。

当事業所は、信濃川に流入する梓川、奈良井川及び中房川等の上流域の国有林内で山腹・溪流荒廃地の復旧に向けた治山事業を計画・実行しています。

現在、発注した工事の監督業務を行っています。その殆どが継続事業箇所であり、今回初めて携わることとなった地すべり防止工事を含め全体の規模も大きいことから、指導や助言を署よりいただきながら、業務に当たっています。

岐阜県との境にある梓川筋国有林では平成二十五年より地すべり防止工事を実行しています。

当該箇所は平成二十三年九月に発生した台風被害により既存の崩壊地が拡大崩壊を起こし、現在、当該箇所上部より地すべり対策として、集水井及びこれに付帯する工種の施工を進めています。昨

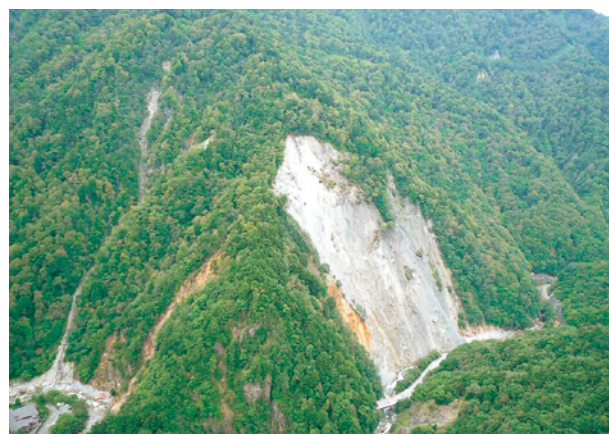


玄文沢【上高地】工事実行状況（1月中旬）



徳本峠展望台からの穂高連峰（5月中旬）

年度までに三基の集水井を設置し、当面は、計画した残りの集水井の設置、集水井内の集・排水ボーリング等の施工が主となります。さらに、毎年実施される調



坂巻【梓川筋】地すべり対策工事箇所 遠景

査での報告内容、現地に設置してある各種計測器からの数値の推移等を鑑み、掘削場所の地質形状の把握、使用する資材や工種の優先度等を検討し、今後の抑止対策等計画を進めていきたいと考えております。

さて、本年から国民の祝日として施行される「山の日」（八月十一日）記念の第一回全国大会が上高地にて行われます。これまで以上に上高地の注目度が高まっている中で、当署としてものぼり旗や法被、ステッカーを使つてのPR活動に努めています。

梅雨の時期となり、急激な天候の変化や落雷等に注意を払い、無理のない判断で安全に業務を遂行していきたいと思ひます。



有志等で作業中の登山道の橋架け替え【島々谷】

行事・会議等の予定

◎林野庁監査

7月4～8日 中部局・南信署・東濃署

◎「木曾悠久の森」管理運営委員会

7月12日 木曾署

◎「木曾悠久の森」植生管理専門部会

7月13日 木曾署管内

◎森林管理局治山課長会議

7月21日 林野庁

◎岐阜県・愛知県林政連絡会議

7月28日 岐阜県庁



◆川浦（かおれ）溪谷

清流板取川は魚釣りでも有名ですが、上流にある川浦（かおれ）溪谷は、高さ三十メートル、全体約七キロメートルに及ぶ溪谷で、断崖を望む壮大な景観は四季折々の彩りを見せてくれます。

ここでは、西側の板取川上流西北部、板取地区を紹介します。



近くにはキャンプ場もあり川遊びやキャンプを楽しんだり、板取川温泉では散策等で疲れた体を癒やすこともできます。

また、秋には「せきサイクル・ツーリングin板取川」の開催が予定されており、多くのサイクリング愛好者が板取川沿いを自転車で駆け抜けます。

◆二十一世紀の森（株杉）

少し下流に下ると、四方を山に囲まれた自然あふれる公園「二十一世紀の森」の中に、「株杉の森」があります。



伐採が繰り返し行われ、この状態になったもので、百株以上の株杉があり、そのうち株の直径が一メートル以上のものが三十株あります。樹齢は大きなもので四百年から五百年と推定されており、自然の神秘が感じられる森です。



また、この公園とその周辺には十万本のアジサイが植えられており、六月下旬から七月上旬に見頃を迎えます。この時期には「関市板取あじさい村」が開村、月末の土日は「あじさいフェスティバル」が開催され多くの観光客で賑わいます。

◆モネの池

もう少し下流には、最近テレビで紹介され一躍有名になった「モネの池」があります。

印象派を代表するフランスの画家「クロード・モネ」が描いた絵に似ていると評判になっています。週末にもなれば一千人もの来訪者があります。

◆治山工事

この地域の最上流部は、地形が急峻で、伊勢湾台風や平成十四年の台風による記録的な豪雨により、大規模な山腹崩壊が発生・拡大するとともに、土砂流出、濁水が発生し、下流に甚大な被害がありました。

平成十六年からは、県や地元からの要請を受けて、災害に強い森林の再生を目指して、山腹崩壊地の復旧や溪床の土砂を安定させるための民有林直轄治山事業を実施しています。



アクセス方法

東海環状道関広見ICから北へ、R418・R256を経て、関市板取事務所まで、34・3キロメートル約60分